

カルメル

霊性センターニュース



2015年1月

305号

## 目次

年頭のご挨拶	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	19
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

2015年 年頭のご挨拶



主のご降誕の喜びの内に

新年のご挨拶を申し上げます

昨年も、『靈性センターニュース』を物心両面でお支えくださり、まことに有難うございました。読者の皆様に心からの御礼を申し上げます。

昨年は創刊者の奥村一郎神父が帰天し、『靈性センターニュース』は大きな節目を迎えました。8月号を除いて毎月、約27年にわたり、発行し続けてきたこととなります。

今年は、すでに昨年の10月号でお知らせしたように、跣足カルメル修道会にとり、特別に大切な年となります。500年前の3月28日に、本修道会の生みの親であるイエスの聖テレジア（アビラの聖テレジア）が、スペインのアビラに誕生したからです。全世界のカルメル会は、昨年の聖女の祝日10月15日から今年の10月15日までを生誕500周年の記念の年として、祝っております。

聖テレジアの靈性は、跣足カルメル修道会の靈性の中核を成していますが、教会博士である聖テレジアの靈性は、教会全体の靈的財産でもあります。聖女の靈性が、現代において、より多くの人々に理解され、キリスト教の信仰を生きる上で、大きな支え、助けとなりますように祈っております。

今年も、種々の記事と、黙想会や集い等の企画案内を、みなさまへお届けいたします。

今年一年が、皆さまにとって主の恵みに満ちたお年となりますように。

編集長

P. 九尾 彰 o.c.d.

**Merry Christmas  
& a Happy New Year!**

カルメル靈性センター事務局



# 奥村一郎選集

## 追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を  
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



### 慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



### 多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



### 日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい旋

第4巻



### 日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



### 現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



### 永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



### カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



### 神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



### 奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

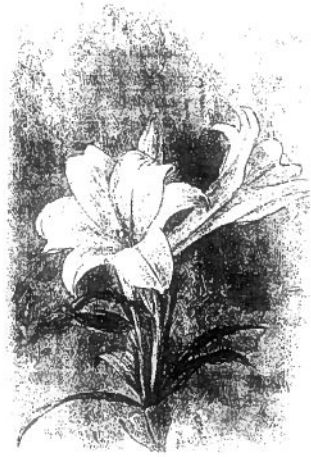
カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 心の泉





## 第二巻

### 第九章 すべての慰めの喪失

#### 1 心の乾燥

神の恵みがある時、人間からの慰めを捨てることは易しい。ところが、人間からも神からも慰めを受けずに生活し、神の光栄のために喜んで心の乾燥を忍び、あらゆる点において自分を求めず、自分の功德を考えないのは、大きな、実に大きな徳である。神の恵みを受けている時に、快活で、敬虔な生活をしていても、それは大したことではない。こうした恵みは、誰でも望むところである。神の恵みに運ばれれば容易に前進する。全能の神に支えられ、最高の指導者に導かれる人が、重荷を感じないのは当然のことである。

#### 2 悲しんではならない

私たちはいつも何かの慰めを求める。そして自分自身を脱することはむずかしい。殉教者聖ラウレンチオはこの世に勝ち、教皇に対して抱いていた愛にも勝った。なぜなら、この世において、自分が楽しみに思っていたものをすべて犠牲にし、敬愛していた教皇シスト二世が、キリストへの愛のために取り去られることをも耐え忍んだからである。こうして彼は、創造主を愛するがために、人間への愛に勝ち、人間からの慰めよりも神のみ旨のほうを選んだ。あなたも、神への愛のために、慕わしい友、ある意味で、なくてはならぬ友さえも犠牲にすることを学ばなければならない。いつか私たちは、互いに離れなければならないことを知り、友人から捨てられても、悲嘆に打ち沈んではならない。

## 聖テレジア生誕 500 年を祝って

日々神と親しく生きる -1月-

新しい年にあたって主の祝福をお祈り申し上げます。



聖テレジアの生誕 500 年を祝うこの新しい年が新しい息吹を受けて一人ひとりにとって新鮮な日々となりますように。

日々のできごとのうちに神の慈しみの愛を見極めて生きることができますように、「霊的な人びとの母」テレジアの導きを願いましょう。

苦しみ、困難、問題などが尽きることがないように思われるときにも・・・激しい騒音の中で、また一見平凡な日々のできごとの中でもよき羊飼いの「声」を聞き分けることができますように。

神の母にささげられた祝日ではじまるこの新しい年が、読者の方一人ひとりにとって神の母のご保護のもとに良い年でありますように。

聖母にお倣いなさい。

聖母がいかに偉大でいらっしゃるか

そして、その方を保護者といただいていることが、  
いかにありがたいことかをお考えなさい。

～アピラの聖テレジア～



伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

## 人を赦す (15)

くのり 彰

原罪は、人間の傲慢、自己中心性にある。蛇がエバを誘惑したように、この世は、自分を高めるように絶えず囁きかける。実際、人は、子供から大人へ、半人前から一人前に、素人から玄人へ、両親や教師や先輩や多くの人々によって教えられ、養成され、成長していく。

それは、どの分野でも同じことであり、小さな子供から大きな大人となっていく人間の自然性に合致している。だが、ここに落とし穴がある。自分を偉い者、偉大な者として、他者の前で誇ろうとする思いが湧いてくるからである。だが、パウロは言う。

「誇る者は主を誇れ」。自己推薦する者ではなく、主から推薦される人こそ、適格者として受け入れられるのです。(2 コリ 10・17-18)

この世においては、皆が各分野でしのぎをけずっている。ノーベル賞や金メダルを取ること、コンクールで優勝すること、何々賞を取することは、それ自体としては、称賛に価することであるが、そこから自分を誇る誘惑が生じてくる。

しかし、無限の神の前では、人間のわざは無に等しい。そこでは、この人生において何を為したかということではなく、どのような人間であったか、キリストの愛をいかに生きたかが問われている。それは、単に愛の行為をしたかということではなく、愛の行為をしたとしても、本当に愛をもって行ったかどうか問われているのである。

たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、私は騒がしいどら、やかましいシンバル。たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。全財産を、貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、私には何の益もない。

(1 コリ 13・1-3)



## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (87)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 初歩読本と指示棒

アビラのアハテス地区の小さな人々の間でもなお小さな十字架のヨハネが、子供たちに要理や読み書きや朗読の仕方を教えている絵は、とても美しいものです。

けれども、このこぼれ話はそこでのことではなく、バエサの聖バジリオ修道院でのことです。そこで彼は、学長でした。修練者の一人に、ホアン・ロドリゲスとフランシスカ・デ・トレスの子で、カステッヤール出身の聖パウロのホアンという者がいました。彼はサラマンカで法律を学んだ学者でしたが、靈的書物にうんざりし始め、修練長のところに行き、あることについて調べるために彼の専門である教会法の本を願いました。修練長は、学長に相談しました。十字架のヨハネは、彼にこう答えました。

「初歩読本を持ってきてください」。

初歩読本（訳者注：小学校入学前の子供が使用）とは、「アルファベットの文字が書かれている印刷物で、それによって子供たちは読むことを学び始めるのです」。そこには、キリスト者の祈りもいくつか出ており、ヨハネは指で指して、こう言いました。

「この読本初歩と指示棒を彼に与えなさい。そして私が他のことを命じるまで、毎日、他のことはさせずに、『主の祈り』のこの章を読ませなさい」。

修練者はこれに従い、非常に長い間、「ひざまずきながら、子供のように手に棒と読本を持ちながら、子供の時、急いで学んだものをゆっくりと読み、学び、黙想しました」。

この薬は効果的でした。これについて語ったアロンソ神父は、その靈的教育的処置の結果を評価しつつ、こう言っています。「何日にも及ぶこの学びは、無駄ではありませんでした。神は彼の高慢の鼻を折ることによって、大いなる甘美さを与えたので、彼は他の仕事に移れないほどでした」。

ヨハネは彼を学校に送る他に、「修練期のかなり期間、台所へ送り、さまざまな苦行を行なわせました」。月日が経ち、カスティリヤの管区長となった聖パウロのホアン自身が、感謝と喜びをもって、このエピソードを語りました。

「別の道を通して自分たちの国へ帰っていた」(マタイ 2, 12)。

幾年かの前の年頭に、こんなコラムを新聞紙面に読みました。星や天体の動き、宇宙を観察し、そこに偉大な何かを読み取る人たちに関するものです。その人たちは、今日の福音での二千年前の占星術の学者たちではなく、現代の日本の宇宙飛行士に関するものです。そのコラムは、「宇宙飛行士には、気立てのよさそうな人が多い」との言葉で始まり、「日本人女性宇宙飛行士第二号の山崎直子が帰還後の著書『夢をつなぐ』に『どんな存在も、決してムダというものではなく、世の中にすべてのものには意味がある』と記す。『どんなに悲惨な災害が人々と襲うとも、飢餓や貧困、差別や格差が厳然としてあろうとも、それでも生きている世界は美しい』と」。そして、このコラムの筆者は、結んでいました。「飛行士たちが日本語で伝える天空体験の数々は、等しく、地球と人間の尊さ、愛おしさを語る。『好人物』に備わる優しさの何割かは、どうやら宇宙から持ち帰ったものらしい」と。この「宇宙体験」の特殊な作用は、別のところでも読んだことがあります。宇宙空間から地球を眺めると、国境線もなく、すべての人類、文化が一つの地球に息づいている、争いも対立もない連帯した兄弟たちのまどい。神の目線の中の人類とはこのようなものではないでしょうか。それは、一種の悟りと言えるものが開かれて行くのに立ち会っているのではないのか、と思うのですが。わたしたちには、宇宙飛行などは、夢のまた夢と言ったものですが、しかし、その体験を実際に生きた人たちがする証言、自分の世界観、人生観が大きく変えられた、との証言、これは、夢ではなく、現実と言うべきでしょう。この体験を生きた人が、現実の中に新しい人間関係を創造して行くのですから。

さて、わたしたちにとって、福音の読書体験は、宇宙旅行と同じような意義を持ってはいないのでしょうか。福音で体験するのは、人間の価値観の延長線上にある世界ではなく、そのようなものを超越した神の御旨が導き続けている世界、わたしたちが目指してゆくようにいと招かれている世界なのです。そして、この世界を前にする自分たちの現実の小ささ、歪、不完全さ、愚かさもですが。しかし、残念なことには、わたしたちには、小ささが放棄することができない貴重なもの、歪、ゆがみが離れることができないものと思え、実に人間の長い歴史が教えてくれている愚かさを繰り返してしまうのですが。イエスが招く新しい道、別の道を歩み始められますように。 ルカ渡辺幹夫

## 主の洗礼

みことばのひびき

(マルコ1:7-11)

私たちは本日、主の洗礼の祝日を祝います。イエスは聖なる方であり、罪は全くない方ですが、罪の赦しのために悔い改めの洗礼を受けます。これは屈辱の行為であり、罪びとであることを公けに受け入れる行為でした。これはイエスが罪のある人類と同一であるという証しです。イエスが罪びととして人類と同一なのではなく、人間の仲間として同一なのです。しかし、ヨルダン川での出来事を理解するためには、イエスの洗礼を罪と関連づけで見ることを以上を考えなければなりません。ここで本当に強調されていることは、御父によって全く受け入れられ正式に認められている明確なイエスの要素なのです。イエスが水の中から出ると、天が開け、神の霊がイエスにくんだり、神の全ての充満がイエスを満たします。「これは私の愛する子、私の心に適う者」

福音書のこの場面は感動的です。イエスは今や神の御子であるだけでなく、父の献身的な奉仕者であります。イエスの上に霊がくだり、この霊はイエスを荒野へ、公生活へ、十字架へ、全てのところへ導きます。あなたは私の子、私の心に適う者、という御父の言葉があります。三位一体の顕示が完成します。神はご自分を人類に啓示され、人間への関心を語られます。天と地との間の距離に橋がかけられ、神は今、イエスにおいて、イエスを通して、世界の中に現存されます。

福音書のイエスの洗礼の記述は、私たち自身の洗礼のことを思い出させます。イエスに従う者は皆洗礼を受け、イエスも私たちとの一致を示すために洗礼を受けることを望まれたのです。新しい家族である教会は、聖霊降臨のときにつくられました、洗礼は教会に入る手段です。イエスがヨルダン川で洗礼を受けたとき、聖霊が注がれました。私たちは洗礼のとき聖香油を受け、イエスと同じように聖霊を受けます。イエスが洗礼を受けたとき、聖霊がイエスの上にくだりました。神の子どもとしての新しい被造物に私たちを変える聖霊が、洗礼の秘跡を通して私たちの上にくだることを知らせるために、聖書はこの出来事を私たちに語っているのです。神は私たちがイエスに似たものになるために、私たちを聖別する清めの過程を始めます。

神なる御父は息子に「あなたは私の愛する子です、あなたと一緒にいて嬉しい」という言葉を告げます。私たちの洗礼の日に、そして人生のあらゆる瞬間に、同じ言葉が御父によって語られています。私たちは一人ひとり、神のやさしさに抱かれ、気高さに覆われ、奉仕、証し、所属のための香油で聖別されます。神の配慮は繊細で、完全で、感動的なものであり、神は私たちを子どものように世話してくださいます。本当に、神は私たち一人ひとりを絶えず気にかけてくださっています。洗礼の約束を新たにし、神が地上に与えている使命の完成に再び奉獻し、生活のお手本によって神の証し人になりましょう。イエスとイエスの使命に私たちの生活を奉獻しましょう。

(Sr. Paulina)

「来なさい。そうすれば分かる」(ヨハネ 1, 39)。

「召命の神秘」、これが、今日の主題であると言うことができます。人間に関心をよせるから人間を招く神と、まだはっきりとは分かりきってはいないとしても、自分を超越するものに関心をよせるから、その呼びかけに応答する人間の間関係の特有なものを見出します。この神と人間との出会いから、生活を美しいもの、生きられるに値するものとする新しさの泉が湧き出てくるのです。今日の朗読の登場人物たち、少年サムエル、アンデレ、ペトロたちから、的を射た、寛大な振る舞いを学び取ることができ、わたしたちが靈感を得るに有効なモデルを持っていることになります。聴き従うことは、神からの無償の賜物が開く新しい将来、自分では思いもしなかった未来からの招きと、人間の真摯な探求と寛大な愛、自発的に行動を起す豊かな人間の側からの応答の混合体なのです。「来て、見なさい」、この命令は、行動を起す前にすべてが見えている、とは想定してはいません。しかし、わたしたちの前に、わたしたちと同じように、「来て、見なさい」と声をかけられた人たち、その招きに誠実に従った人たちの歩み、生涯を見、その人たちの体験からの証言を聴くことを通して、その人たちが起した行動の行き着く先、未来を感知し、その未来が自分の生命にとっても有意義な、あるいはなくてはならない意義を持ってくる、その察知に大胆な行動を促され、そこに、聴き従う、信じ従う決断、召命の出来事が誕生するのでしょうか。

今年の四月に、あるブログに、京都大学霊長類研究所の松沢哲郎博士という方の「人間とチンパンジーの違い」の要約を読みました。その中で大変興味を持ったのは、チンパンジーはある局面では人間以上の知的能力を持っている、「自然界を生き抜くために今ここにあるものを鋭く見極める能力」。しかし、人間の知性は、今、ここにはないもの、つまり時間や空間を超えて、ここにはない「未来」を思い描くことができる能力を発達させてきた、ということです。チンパンジーと人間の違いのもうひとつは、手助けの「自発性」だそうです。自分の将来だけではなく、共に生きるすべての人の未来を見据え、共に助け合って、その未来に向う、これは、召命と言われる現象、その偉大さではないでしょうか。現実に甘んじるのではなく、すべての人の未来に貢献できる、どんな道がわたしたちの眼前には開かれてくるのでしょうか。

ルカ渡辺幹夫

## 年間第三主日

“悔い改めて福音を信じなさい” (マルコ 1-14-20)

今日の福音の中で、神の国の到来を告げ、宣教活動をはじめられるイエスに出会います。“時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい”とイエスは人々に呼びかけ、その呼びかけに応えるよう望まれています。確かに、今日の福音のメッセーの全てはこの二つのことの中にあります。イエスがこの世に来られた目的とどのようにしてわたしたち一人ひとりがこのイエスに応えていくべきかを示しています。

イエスは全ての人に向かって回心して信じるものになりなさいと仰います。“悔い改める”ことは今までの自分を反省し悪かったと思うだけでは足りません；それは人生の根本的な方向転換、人が何を最も大切に生きていくかという生き方の基本を変えることです。それはまたこれまで進んできた方向をより重要なものに軌道修正することです。これは福音そのものであるイエスを信じることに他なりません。イエスを信じるということは単にイエスの教えを受け入れることではなくその教えを実践し、完全に自分を奉献しきってイエスと共に神の国を建設することです。その神の国は教会よりも遥かに広く広がって行きます。

福音の後半には、主の呼びかけを受け即座に従った四人の漁師の様子が描かれています；イエスは“わたしについてきなさい。人間をとる漁師にしよう”と言われます。ペトロとアンデレは網も舟も残し、すぐにイエスに従いました。他の二人の弟子、ヤコブとヨハネも同様に父ゼベダイを舟に残しイエスに従いました。これはイエスがどのように弟子たちを召し出されたかということですが、その召し出しこそ彼ら一人ひとりがいただいた召命なのです。以前から彼らはイエスの事を聞き知っていたでしょう。けれども実際にイエスに出会って、何も持たず、自らをも顧みず、人々に宣教して歩かれるイエスに魅せられて従ったことは大きな前進でした。主人に自分の全てを捧げ尽くし、主人の召出しを一つの挑戦として受け入れたのです。彼らは本当に人間をとる漁師となり、偉大な師であるイエスがもたらされた新しい生き方、真理、愛、自由、正義に根ざした新しい生き方を人々に教え続けました。

イエスは“わたしについてきなさい。人間をとる漁師にしよう”と言われました。人間をとる漁師はキリストの大使です。彼らはキリストの代わりとなる人たちです。全てのキリスト者は洗礼の恵みによって世の光であると言われていています。世の人々に先んじて世を福音化するからです。先ず家族に、次に友達に、同僚たちに、初めて出会う人々に、出会う全ての人々に主の福音を、神の栄光のために宣べ伝えて行きました。

現代の不安な騒々しい世の中で、主に従い主の福音を生きようとする決意は度々揺らいでしまいます。周りの人々に回心を勧め、癒し、慰めを与える機会もつかみ損なってしまいます。わたしたちの主であり師であるイエスに熱心に祈りましょう。わたしたち一人ひとりを主イエスの憐れみに満ちた愛の忠実な、勇敢な証人としてくださいますように！

(Sr. Paulina)

日曜日は朝7時のミサに与るので早起きをします。

起床すると「こころの時代」というNHKの宗教、人生のテレビ番組がちょうど始まるので、それを流しチラチラと画面を見たり、耳にはさんだ言葉に心を留めたりしながら、教会へ行く支度をします。

先頃この番組で、山折哲雄氏との対談で失礼ながらお名前を確かめられないのですが、作家の方が話されていることが心に響き手をとめて聴き入りました。

対談は日本人の死生観というテーマのようでした。

「91歳になる祖母が、もう身体もきかないし認知症の徴候も出ているのですが、毎朝しくしくと泣いているのです。ふるさとの高千穂へ帰りたいから明日連れて行っておくれと言うのです。高千穂に現に居るのにです。ここは高千穂だよと言っても明日連れて行っておくれと毎日泣いて頼むのです。それで初めは分からなかったのですが、実は気がついたことがあります。祖母は必ず明日（あした）というのです。今連れて行っておくれとか今日連れて行っておくれではないのですね。なぜかいつも明日連れて行っておくれなのです」。

「いいですね 人間にとって明日というのはいいいですね」 「希望ですね」。

明日ふるさとへ連れて行っておくれという裸の魂の切なる願い。それを澄んだ心で聴きとっている。終末の希望を念じている。私の内に深く感応するものがあり、心は静かな世界へと深深と降り沈み落ちてゆきました。

唐突に思い出されるものがありました。

小説「風と共に去りぬ」(マーガレット・ミッチェル)です。中学生のころでしようかとかかく無我夢中になって読み耽りました。あの長いものを4回ほど通読したのです。アメリカ南北戦争が背景にある時代、南部アトランタの大農園を中心にくりひろげられる壮大な物語ですが、魅力溢れる女主人公スカーレット・オハラは、波瀾万丈の終幕で愛する人に去られ喪失感、敗北感に陥ります。そして失意の中、ふるさとのタラを深く想うのです。「そうだ 明日タラへ帰ろう」と大声で叫んで一步を踏み出す気力を取り戻します。「明日」と「ふるさと」はスカーレットにとって新しい歩みへのかけがえのない希望となるのです。「すべては明日タラで考えよう 大丈夫だ 明日は明日の陽が照るのだ」という最後の科白は、長大な豪華絢爛たる物語のこれぞ極め付きというべき印象深い結語です。

私たちは幼い頃、夕方になると「また あしたね」と言って友達と別れなかったのでしょうか。「俺たちに明日はない」とか「明日があるさ」とか「あした天気になーれ」などはいつか身辺どこかで耳にした話です。

明日（あした）という日は誰にとっても人生さまざま出来事の中に意味深い体験として身に刻まれているのだと思います。明日というものを一度も思ったことがない人、明日という単語を一度も口にすることがない人、明日に向かって一度も心を開いたことがない人は一人もいないはずです。

しかし考えてみるのですが、それほど身近な明日なのですが明日を思うというのは、実のところは分からないことへの心の開きであり、それは闇に向かっていているのだといえないでしょうか。私たちは一寸先は闇とよく言いますがまだ来ていないということでは、明日は確かに闇なのです。

くだんのおばあさまの、明日高千穂へ連れて行っておくれという願いは、叶うことはないのです。ここがすでに高千穂であるという理解は、もしかしたらそれほどには重要ではないのかもしれませんが。明日を思い果たされない望みを願い続けること、それは今、何か人間の深い神秘に近づく感じがして戦えます。

ふと、パウロ書簡が思い出されます。

「目がまだ見ず耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かばなかったことを、神はご自分を愛する者たちのために備えられた」（1コリント2-9）

作家のおばあさまもスカーレット・オハラも、明日とふるさととはひとつです。

もしかしたら私たちキリスト者もそうであるのかもしれませんが。私たちのほんとうのふるさと、私たちの帰りゆくところ、それはいつも明日なのではないでしょうか。

今またひとつ思い出されるものがあります。

ずっと昔から気にしている言葉ですが、「アベラールとエロイーズ」で知られるアベラールの言といいます。（よく考えて、よくかみくだいて読みます）

「目ざすところは、欲求がその欲求の対象よりもまさることなく、その充足が欲求していたことよりも劣らない国である」。

# いのちの言葉 1月

イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。

(ヨハネ4・7)

イエスはユダヤを去り、ガリラヤへ向かう途中、サマリアを通られました。正午ごろ炎天下で、旅に疲れたイエスは、一七〇〇年前に先祖ヤコブが掘った井戸のそばに腰を下ろされました。のどが渇いていましたが、水を汲む道具がありません。

弟子たちは食べ物を買って町に出かけており、イエスが一人そこに残っていると、水がめを持ったサマリア人の女がやって来ました。イエスは彼女に「水を飲ませてください」とシンプルに頼みます。これは、当時の男性と女性、ユダヤ人とサマリア人との関係を考えて、慣習に相反する行為でしたし、女はモラルの面でも問題がありました。しかしイエスはさまざまな思惑にとらわれず、彼女と会話を始められます。相手の心の中に入ることを望み、「水を飲ませてください」と願われます。

イエスは、女のために「生きた水」という贈り物を準備しておられます。後にエルサレムの神殿で、イエスが「渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい」と叫ぶのを私たちは耳にします。水は、あらゆる命に欠かすことのできない大切なもので、パレスチナのような乾燥地帯においてはなおさらです。イエスが与えようとされる「生きた」水は、神の啓示、すなわち愛でおられる御父、聖霊、イエスがもたらす神聖な命を象徴するものです。イエスがくださるものにはすべて命があり、ご自身が「生きた」パン、命を与えるみ言葉、命そのものなのです。後にヨハネは、十字架に付けられたイエスの脇腹を兵士の一人が槍で刺すと「すぐ血と水とが流れ出た」と証言していますが、イエスは、そこまで全面的にご自分をお与えになりました。

しかしイエスは決してサマリア人の女に押し付けず、彼女が正式に結婚していないことも責めず、全てをお与えになれるにもかかわらず、彼女に自ら願われます。女からの贈り物を本当に必要とされたからです。

イエスは疲れてのどが渇いておられました。命の主である方が、人間としての姿を隠さず、「水を飲ませてください」と女に願われたのです。彼女が水を与えることによって、よりたやすく心を開き、イエスの贈り物を受け入れる準備ができるとご存じだったからです。

これに続く二人の会話は、最初は食い違いながらも徐々に深まっていき、最後にイエスをご自分のアイデンティティーをはっきり言い表されます。対話によって自己防衛の壁が崩れ、女は真実、つまりイエスによってもたらされた「水」の発見にまで導かれます。そのとき彼女は、自分が持っていた一番大切なもの、つまり水がめを置いたまま立ち去りました。それ以上に素晴らしいものを見つけたからです。女は町に走って行き、今度は自分が近所の人たちに話し始めます。彼女も決して押し付けることなく、自分に起こったことや経験したことをそのまま人々に伝え、自分が出会った方について「メシアかもしれない」と言います。



「水を飲ませてください。」

この福音の一ページから、私たちは、毎年一月に皆で思い起こすエキュメニカルな対話のため、とても大切な教えを汲み取ることができると思います。「キリスト教一致祈禱週間」は、長年にわたり諸教会の間で続いている分裂について、私たちの意識を呼び覚まします。そして、あらゆる壁を早急に乗り越え、深い交わりに至ることができるよう、私たちを招いています。ちょうどユダヤ人とサマリア人の間の壁をイエスが乗り越えられたのと同じように、です。

キリスト者の間に存在する壁は、他の分野でも見られる不一致の一角に過ぎないでしょう。イエスがなされたように、私たちが互いの違いや偏見を乗り越えて、相手に心を開くことができないでしょうか。いろいろなやり方や形式の違いを乗り越えて、ちょっとした気配りや理解、助けを求める相手に耳を傾けることはできないでしょうか。文化的、宗教的、社会的に異なった背景を持つ相手の中にも、イエスが隠れておられ、私たちに頼んでおられます。

「水を飲ませてください。」

ここで、ヨハネ福音書に出てくる、イエスが十字架の上で発したもう一つの言葉「渇く」が思い出されます。これはあらゆる必要性に先立つ根源的な必要を表わしています。何かを必要としている人、失業中の人、孤独な人、外国人、信念や宗教的信条を異にする人、たとえ敵であったとしても、私たちはその人たちの中に「渇く」、「水を飲ませてください」とおっしゃるイエスの姿を見ることができます。一杯の水を差し出すだけでも必ず報いを受けると福音が言うように、それは再び兄弟愛を立て直す対話につながっていきます。

そして私たちの方も、「渇いている」という、自分の抱える必要性を恥ずかしがらずに伝え、「水を飲ませてください」と願うことができるでしょう。そうすることで、私たちは誠意のある対話、具体的な分かち合いを始めることができます。互いの違いを恐れたり、自分の考えを伝え、相手の考えを受け入れることに危険を感じたりすることもないでしょう。

そして何よりも、イエスがされたように、自分の前にいる人の中に潜在する可能性、その人の中に隠れているすばらしさに注目することです。水を汲むという、ご自身にはできない可能性が、サマリアの女の中に隠されているのを、イエスをご覧になったのです。

ファビオ・チャルディ

\*2015年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

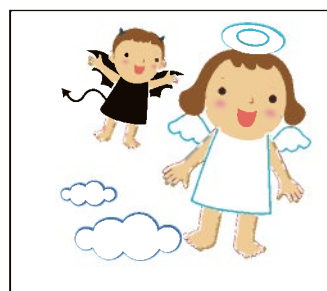
いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp ホームページ:フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocon.jp/>

# ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（183）



## 天国と地獄

だれもが皆、最終的には救われるのでしょうか。すべての人が、究極的には惨めさやあらゆる窮乏から解放されるのでしょうか。然り、そして否です。神は私たちを神の国へ連れ戻したいと望んでいるゆえに、然りです。私たちがそれを選ばない限り、何も起こらないゆえに、否です。神の国の完成は、神のわざですが、神が私たちの内に神の愛を十全に目に見えるものとするためには、私たちが、自分自身の愛で神の愛に応えなければならないのです。

二種類の死があります。一つは、私たちを神の国へと導く死であり、他の一つは、私たちを地獄へと導く死です。ヨハネは、ヴィジョンの中で、天国ばかりでなく、地獄をも見ました。彼は言っています。「おくびょうな者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、みだらな行いをする者、魔術を使う者、偶像を拝む者、すべて嘘を言う者、このような者たちに対する報いは、火と硫黄の燃える池である。それが第二の死である」（黙 21・8）と。私たちは、神と共にいることを望むならば、神を選ばねばなりません。（1214）

## 第二の死

地獄は第二の死です。それは、黙示録が述べていることです（黙 21・8 参照）。永遠の命があるのと同じように、永遠の死もあるのです。永遠の命は、第二の命で、永遠の死は第二の死です。私たちの最初の死は、永遠の命への通路であるばかりでなく、第二の死の通路でもあるのです。

地獄を第二の死と見なすことは、中世の美術や文学に広く見られる永遠の苦しみや拷問といったイメージを払拭します。それは、地獄を、悪い行いに対する罰というより、命を選ぶことの拒否と定義するからです。実際、黙示録が第二の死へと導くものとして挙げている罪は、死の選択なのです。人を殺すこと、忌まわしい礼拝をすること、みだらな行いをする事、嘘をつくことなど（黙 21・8 参照）です。私たちは死の種を蒔く時、死を刈り取るのです。しかし、命の種を蒔く時、命を刈り取るのです。種を蒔くのは、私たちなのです。（1217）

九里 彰訳

# 跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

## << Communications (時事通信) >>

### 教師の中の教師、十字架の聖ヨハネ

2014年12月13日



彼は、信仰の道の師として、慕われています。事実、彼の人生の証しは、その教義と同様に、観想と兄弟・姉妹への奉仕を通して神を経験しようとするすべての人の助けとなっています。彼は、真の観想者のために、すなわち人生の意味を神の探求において見出そうとする人のためにいます。

彼は人生の学び舎で学びました。子供のときから貧しさを知っていました。父親と兄弟たちが飢えて亡くなるのを経験しました。他の多くの人々のように、貧しさのためよりふさわしい場所で生き延びていくために故郷の村を離れなければなりません。彼はメディナで仕事を探しました。いろんな職業の奉公人になり、誰もそばに寄り添う人のいない病人の世話をしました。

これらの経験により、彼は謙遜で単純な人となりました。そして、跣足カルメル修道会の修道者になり、修道会の本部で仕事をするようになったときも、彼は病人の世話や庭仕事や掃除やれんが積みなどを続けることを卑下せずに、あらゆる手仕事に勢を出し、またいつも研究や祈りの時間を、また彼の霊的指導と模範を必要とする人々のために時間をつくりだしていました。

十字架の聖ヨハネは、貧しいキリストを抱きしめることによって、福音的清貧を自発的に引き受けました。それは、彼の人生を、彼の内的な自由の源となった物質的なものからの離脱と放棄の表れとしての生き方へ、仕事とまじめさと富からの離脱に基づく生き方へと変えていきました。

# カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」  
アビラの聖テレサ  
マルセル・オクレール著  
福岡カルメル会訳



「創立史」  
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」  
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」  
十字架の聖ヨハネ著  
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

# カルメル会の企画案内



# イエスの聖テレジア生誕 500 周年



## 1. カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：「現代における預言者 聖テレジア ―聖女のカリスマを次世代に伝える」

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）

日時：下記の各日曜日 午後二時半開始 入場無料（講話の後、主日のミサ）

- 2月22日 松田浩一（カルメル会）  
「キリスト者一致に対するテレジア的預言」
- 3月1日 片山はるひ（ノートルダム・ド・ヴィイ）  
「聖テレジアの靈的母性」
- 3月8日 九里 彰（カルメル会）  
「修道生活の改革者 聖テレジア」
- 3月15日 中川博道（カルメル会）  
「21世紀のために生まれた聖テレジア」
- 3月22日 今泉 健（カルメル会）  
「テレジアに学ぶ宣教の精神」

## 2. 特別講演会

マクシミリアーノ・エライス神父

（スペインのヴァレンシア管区長から総長顧問となり、現在はアビラの聖テレジアと十字架の聖ヨハネ国際センター（CITeS）の教授。著書多数）

〈一般信徒対象〉

- 3月21日（土） 午後2時～4時 京都カテドラル
- 3月28日（土） 午後2時～4時半 上野毛教会聖堂 講演後ミサ

〈奉献生活者対象〉

- 3月23日（月） 午後2時～4時 ニコラ・バレ

## 上野毛霊性センター ～2016年3月

黙想企画 \*\* 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

### 1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2015年 4月 2日(木)夕食～ 5日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2015年12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

### 2. 日帰り一日黙想会 10時～16時

〔聖人たちを支えた神のことば〕 福田正範神父

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

2015年

4/17 (金)、4/30 (木)、5/15 (金)、5/28 (木)、6/19 (金)、

6/25 (木)、7/10 (金)、7/23 (木)、9/3 (木)、9/18 (金)、

10/30 (金)、11/5 (木)、11/20 (金) 12/3 (木)、12/18 (金)

2016年

1/15 (金)、1/28 (木)、2/12 (金)、2/25 (木)、3/11 (金)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

### 3. 奉獻生活者のための黙想会

12月27日(土)18時～2015年1月5日(月) 福田正範神父

2015年

8月 1日(土)18時～ 8月10日(月)朝 福田正範神父

8月12日(水)18時～ 8月21日(金)朝 福田正範神父

10月13日(火)18時～10月22日(木)朝 福田正範神父

12月27日(日)18時～2016年1月5日(火)朝 福田正範神父

4. 青年黙想会(男女)

2015年

4月24日(金) 16時～26日(日) 16時

11月13日(金) 16時～15日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)

2015年

9月25日(金) 16時～27日(日) 16時

6. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2015年

3月19日(木) 18時～22日(日) 16時「十字架の神秘」

2016年

3月18日(金) 18時夕食～20日(日) 16時

7. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

2015年

3月 5日 洗礼と主の晚餐 福田正範神父

8. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

2015年

1月16日 聖テレジア・ベネディクタ 福田正範神父  
(エディット・シュタイン)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。  
間違いを避けるためなるべく、FAX・はがき・Eメールで連絡して頂ければ幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



# 金曜黙想会

---

聖テレジア・ベネディクタ（エディット・シュタイン）

日 時： 2015年1月16日（金） 10時～16時

指 導： 福田正範 師

場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

会 費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL.03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

お申込み・・・FAX, メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

## 【一般のための黙想】 ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2015年	5月23日(土)～24日(日)	主よ私たちにも祈りを教えてください	中川博道 神父
	9月5日(土)～6日(日)	イエスと友情を生きる「聖テレジアに学びながら」	中川博道 神父
	11月28日(土)～29日(日)	日常生活の中でイエスと共に生きる	中川博道 神父
2016年	1月9日(土)～10日(日)	私が洗礼を受けたこと	中川博道 神父

## 【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)

2015年	2月7日(土)	渡辺幹夫神父	9月12日(土)	渡辺幹夫神父
	4月11日(土)	中川博道神父	10月10日(土)	渡辺幹夫神父
	5月9日(土)	渡辺幹夫神父	11月14日(土)	中川博道神父
	6月13日(土)	渡辺幹夫神父	12月12日(土)	渡辺幹夫神父
	7月11日(土)	中川博道神父		
2016年	1月9日(土)	中川博道神父	2月13日(土)	渡辺幹夫神父
	3月12日(土)	渡辺幹夫神父		

## ・ 水曜の黙想

(午前10時～午後4時)

2015年	1月14日(水)	神の国はあなたに限りなく近づいている	中川博道 神父
	2月25日(水)	キリストの教え	松田浩一 神父
	4月15日(水)	聖テレジアと共に、復活したイエスを探して	中川博道 神父
	5月13日(水)	ファチマの聖母	松田浩一 神父
	6月17日(水)	教会の中に生きる聖テレジア	渡辺幹夫 神父
	7月15日(水)	マリアと共にイエスを信じ愛する道	中川博道 神父
	9月16日(水)	キリスト教の霊性	松田浩一 神父
	10月14日(水)	聖テレジアの過ぎ越し	渡辺幹夫 神父
	11月18日(水)	観想と活動	松田浩一 神父
	12月16日(水)	人となられた神にともなわれて	中川博道 神父
2016年	1月20日(水)	主の慈しみは、新たになる	渡辺幹夫 神父
	2月24日(水)	生きていることの見直し	中川博道 神父
	3月16日(水)	キリストの過ぎ越し	松田浩一 神父

## ・ 四旬節の黙想

(午後5時～午後4時)

2015年	2月28日(土)～3月1日(日)	渡辺幹夫 神父
2016年	3月5日(土)～6日(日)	中川博道 神父

## ・ 待降節の黙想

(午後5時～午後4時)

2015年	12月13日(土)～12月14日(日)	松田浩一 神父
-------	---------------------	---------

## ・ 聖テレサの黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	9月30日(水)～10月1日(木)	伊従信子師
-------	-------------------	-------

## 【奉献生活の霊的セミナー】 (午後1時～午後2時)

2015年	5月3日(日)～5月6日(水)	中川博道神父
		松田浩一神父
		渡辺幹夫 神父

## カルメル青年の集い

(午後5時～午後4時)

2015年	4月28日(火)～4月29日(水)	主よ私はあなたのもの、 私のすべきことは何ですか？	松田浩一神父
	11月22日(日)～11月23日(月)		松田浩一神父

## 【一般のためのカルメルの霊性入門】

(午後5時～午前4時)

2015年	2月14日(土)～2月15日(日)	現代日本の社会におけるテレサのカリスマ	松田浩一神父
	10月14日(火)～10月15日(水)	イエスのテレサ生誕500年閉会式	松田浩一神父

奉献生活者の黙想 午後5時～午前9時  
2015年 7月31日(金)～8月9日(日)  
8月21日(金)～8月30日(日)  
12月27日(日)～1月5日(火)

中川博道 神父  
松田浩一 神父  
松田浩一 神父

### 祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月2日(木)～4月5日(日) 【講話なし、各食事つき】

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(木)～12月25日(金) 【講話なし、各食事つき】



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会, 個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、

その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



イエスの聖テレサ（テレジア） 1515年3月28日生

生誕 500 年記念の年

《2014年10月15日～2015年10月15日》

**主なプログラム《関西地区》**

**2015年1月24日（土）午後 2:30 講話(Fr.渡辺) <京都カテドラル>**

テーマ:世を愛し、いとのおしむ祈りの生涯

**2015年2月14日（土）午後 2:30 講話(Fr.九里) <京都カテドラル>**

テーマ:修道生活の改革者 聖テレジア

**2015年 3月21日(土) 午後 2:00 マキシミリア/神父(テレジア専門家)**

講演会<京都カテドラル>

**2015年 8月10日～8月14日 カルメルファミリー国際交流会**

スペイン・アヴィラで開催!!


《申込み受付中!!》詳しくは各地区のカルメル在世会に

尚、8月5日～8月9日まで、テレサの生誕500年記念のためにスペイン司教団・カルメル会共催のヨーロッパ青年大会が同じ場所で開催される。

詳しい情報は下記のところへ!

611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会修道院

担当 松田浩一神父

TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457  [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6名

【開催日】 2015年 1月30日(金)～31日(土)

2月13日(金)～14日(土)

3月 6日(金)～ 7日(土)

5月 1日(金)～ 2日(土)

5月13日(金)～14日(土)

6月19日(金)～20日(土)

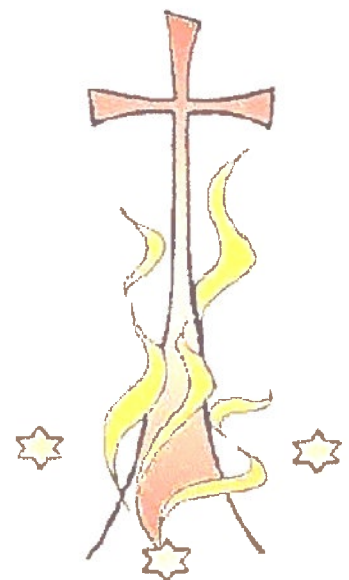
7月24日(金)～25日(土)

9月 4日(金)～ 5日(土)

10月 2日(金)～ 3日(土)

11月 6日(金)～ 7日(土)

12月 4日(金)～ 5日(土)



(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へFAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457

E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

## 霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 276 - 7788



## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

「カルメル」  
今日の霊性・冬号  
四旬節講話特集号



カルメル 2014 特集号

2014 冬 No.355

「イエスの聖テレジアの  
カリスマとその広がり」

● 目次 ●	● イエスの聖テレジアのカリスマと後代への影響	渡辺幹夫	2
	● 二人のテレジア	伊従信子	20
	—— アビラのテレサとリジューのテレトズ		
	● テレジアと出会った十字架のヨハネ	九里 彰	33
	● テレジアのカリメルの中の三位一体のエリザベト	松田浩一	46
	● エディット・シュタインとテレジア		
	—— 出会いと霊的絆	須沢かおり	55
○ 目次 ○	○ 今年の特集 聖テレジアと他の聖人たち ○		
	● 自分の内に生きることなく生きる	九里 彰	3
	—— テレジアの詩とヨハネの詩		
	● 二人の聖テレジア	伊従信子	9
	—— 神の慈しみをとこしえにうたい、 主のまことを世々に告げよう!!		
	● エディット・シュタインと聖テレサ	須沢かおり	18
	—— 現代における親想生活の意味		
	● 風に吹かれて	原 造	25
	—— あかり		
	● 聖テレジアによる祈り	マリリン・フェルナンデス	28
	● 挿者		
	● ルイとゼリー	中山真里	34
	—— 幼いイエスの聖テレサの両親		
	● 西行と芭蕉の霊性	田畑邦治	41
	—— 伊勢における交歓		
	● 「あなたは、とこしえの祭司」	高橋重幸	47
	—— ローマでの叙階式		
	● 神が慈しまれた道	奥村一郎	53

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円（+送料140円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356



# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

### 2015年予定

- |    |                      |                 |
|----|----------------------|-----------------|
| K1 | 1/17 (土) -1/23 (金)   | 東京・小金井・聖霊会      |
| M1 | 2/7 (土) -2/13 (金)    | 宝塚売布・女子御受難会     |
| N1 | 2/23 (月) -3/1 (日)    | 滋賀唐崎・ノートルダム     |
| K2 | 3/14 (土) -3/20 (金)   | 東京・小金井・聖霊会      |
| N2 | 4/30 (木) -5/6 (水)    | 滋賀唐崎・ノートルダム     |
| K3 | 6/12 (金) -6/14 (日)   | 東京・小金井・聖霊会 2泊3日 |
| T1 | 7/20 (月) -7/26 (日)   | 兵庫西宮・トラピスチヌ     |
| K4 | 9/19 (土) -9/25 (金)   | 東京・小金井・聖霊会      |
| N3 | 10/27 (火) -11/2 (月)  | 滋賀唐崎・ノートルダム     |
| T2 | 11/17 (火) -11/23 (月) | 兵庫西宮・トラピスチヌ     |
| K5 | 12/12 (土) -12/18 (金) | 東京・小金井・聖霊会      |

## 真命山 2015年 — 祈りの集いのご案内

祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間のテーマ

### 「イエス、マリア、ヨセフが祈られた詩編」



- 1月 8日 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に  
適う人にあれ。」（ルカ 2,14）詩篇 1. 34. 117. 19. 150
- 2月 12日 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を  
信じなさい（マルコ 1,15）詩編 51. 21
- 3月 12日 過越祭のハレルの詩編：113.117.136
- 4月 9日 復活祭の詩編：2.110.118
- 5月 14日 詩編 45.89（ルカ 2,46-55）
- 6月 11日 詩編 145.146.148
- 7月 9日 詩編 126.130
- 8月 休み
- 9月 10日 詩編 23
- 10月 8日 詩編 42
- 11月 12日 詩編 137.147.150
- 12月 10日 詩編 来られる主を迎えて：72.96（ルカ 1,68）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。  
（要予約）

## リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2014年～15年

### ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

### ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

### ●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、  
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2014年度のテーマ: 超越理解と理性の自己発見  
— II 近世・近代・現代

「中世: 哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)  
[中世末期]

2015年 01/10, 01/17, 01/24, 01/31, 02/07

### ●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

### ●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂  
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月5日は休み。  
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。  
どなたでも。但し祝日、4月30日、7月30日、8月全体、12月24日は休み。

### ●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。

2015年1月10日、2月7日、3月14日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

### ●黙想会

[1泊6,600/7,000円程度]

[関東]

2015年

02月28日(土)10時～3月1日(日)14時(上石神井)。

### ●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 17時30分～20時10分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。

但し祝日、4月17日、4月28日、5月1日、7月31日、8月全体、9月22日、12月29日は休み。

### ●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。

2015年1月25日(日)



## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

### リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2015年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

### リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2014年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

1/20〇休み

01/09 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う

01/16 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む

01/23 霊の動き— 福音による生き方

01/30 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰

02/06 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方

02/13 結婚と独身— 愛の道

02/20 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている

02/27 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く

02/28-3/1 ●黙想会(上石神井)

03/06 人間の苦悩— 悪とは何のためか

03/13 死— その受け入れと克服

03/20 人生の完成— 神の内に生きる

03/27 聖母マリア— 信じる者の原型

04/05 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クトゥールハイム2階、80人限定)



[イエス]

01/06 三位一体の神 — 救いの構造から神内の存在へ

[教会]

01/20 信仰者の共同体 — 教会の本質

02/03 救いのしるしと実現 — 秘跡の意味

02/17 憐れみと愛の祝い — 罪のゆるしとミサ

02/28-3/1 ●黙想会(上石神井)

03/03 「聖徒の交わり」— 世界の只中のキリスト

03/17 人間と世界の究極の未来 — 終末の約束

03/31 信仰者の原型 — 聖書に見られるイエスの母

04/05 ◆復活祭ミサ(14時、上智大学内クトゥールハイム2階、80人限定)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) — 5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、  
キリスト者としての霊性を養うための  
講話と沈黙の祈りで構成された集いです



東京

1月24日(土) 「新しい年を迎えて」

2月21日(土) 「四旬節の祈り」

3月28日(土) 「イエスの祈り」

午後2時 ～ 午後5時30分位まで

講話・祈り・質問・分かち合い

講話 伊従信子

\*\*\*\*\*

参加費 200円

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

\*\*\*\*\*

京都

1月13日(火) 13時半～4時 京都河原町教会(カテドラル)3階

愛するとは：『いのりの道をゆく』聖母の騎士聖母文庫

祈り：カテドラル都の聖母聖堂 参加費 300円

1月17日(土) 13時半～15時 京都NDV 参加費 なし

愛に生きる十字架の聖ヨハネ：『テレーズを愛した人々』女子パウロ会出版

京都お問い合わせは ノートルダム・ド・ヴィ

〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4

TEL・FAX(075-462-3525)

email : [ndvmari@hotmail.com](mailto:ndvmari@hotmail.com)

## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel : 077-579-7580  
Fax : 077-579-3804  
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2015年 4月29日(水)～ 5月7日(木)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月26日(月)～ 11月3日(火)
- ④ 12月27日(日)～ 2016年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2015年 2月6日(金)～ 2月8日(日)
- ② 2月27日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月20日(金)～ 3月22日(日)
- ④ 6月19日(金)～ 6月21日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月27日(金)～ 11月29日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2015年 5月25日(月)～ 6月2日(火) 澤田豊成 師（ハガ会）

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Fax で「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご  
相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

主よ、お話してください。僕は聞いております。  
共に生きこと、祈ること

2014年度 第4回 召命黙想会

日時： 2月14日(土) 15:00~

15日(日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院  
(JR 京都駅から 30 分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,000 円

締切： 2015年2月8日(日)まで

<申込み・問い合わせ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

*Sr.桂川*

Tel: 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email: Karainorind92@mbe.nifty.com



## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門C	1/18(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844
自己を知る *1泊2日× 2=合計4日	1/24(土)9:30- 25(日)17:00 1/31(土)9:30- 2/1(日)17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
日帰り フォロー アップ	2/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナⅡ	3/18(水)17:30- 3/22(日)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	若山美知子※
入門A	4/12(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
リピーターの 会	4/24(金)17:30- 4/27(月)15:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨセフ山の家 (栃木県那須郡那須町)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日× 2=合計4日	5/9(土)9:30- 10(日)17:00 5/16(土)9:30- 5/17(日)17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナⅠ(入門A. B. C) = 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす

◆サダナⅡ = Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される

◆日帰り = サダナⅠを終えた方

◆入門C = 入門Aまたは入門Bを終えた方



# 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00  
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

2月19日（木）『靈魂の城』第六の住居・第八章  
4月9日（木）、6月11日（木）

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。  
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

# 祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



\* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

## 〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編  
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016  
A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

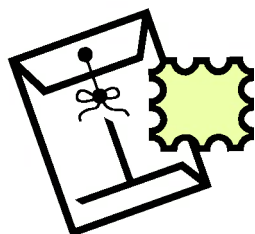
オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*



2015年1月から12月までの『霊性センターニュース』  
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。  
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号(但し8月号休刊を除きます)  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

\* 何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

## 『靈性センターニュース』 お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

2015 年が始まります。今年は、聖テレジア生誕 500 周年を迎え、跣足カルメル修道会にとっては、特別な年となります。

日本では、毎年、上野毛教会聖堂で行なっている四旬節講話シリーズを、2012 年からテレジアの靈性にしばって実施し、その内容を靈性誌『カルメル』で多くの方々にお伝えしてまいりました。共通テーマは以下の通りです。

2012 年「テレジアは現代に何を語るか —アビラの聖テレジアの著作を読む」

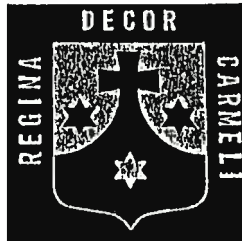
2013 年「神との出会いを求める人々の母 聖テレジア」

2014 年「イエスの聖テレジアのカリスマとその広がり」

2015 年「現代における預言者 イエスの聖テレジア —聖女の靈性を次世代に伝える」  
また「カルメル会の企画案内」でご紹介したように、3 月にスペインからテレジア研究者の一人であるマクシミリアーノ・エライス神父を招き、京都（21 日）と東京（28 日）でテレジアの靈性について講演をしていただく予定です。

アビラの聖テレジアの靈性が、多くの人々に知られて行きますように。

(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「2月号」製本日

[1月27日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171